

脱原発原告団全国連絡会をつくりましょう！

子どもたちや住民が、もう二度と原発事故によってふるさとを失うことがないように、健康被害を受けることがないように、原発の再稼働に反対するとともに、原発すべてを速やかに廃炉にするために各地で裁判を戦っておられる原告団のみなさまによびかけます。

それぞれの戦いをお互いに支援するため、そしてまた、各地域での訴訟を全国的にアピールし、関心をもたない人たちにも、原発訴訟の重要性、緊急性を知っていただくために、全国各地の訴訟団が団結し、連帯できる、ゆるやかな全国組織をつくりませんか。

すでに全国の原発訴訟の弁護団は、「脱原発弁護団全国連絡会」をつくり、定期的に集まって情報を共有しながら、裁判を戦っています。それぞれの原発に特有の事情もありますが、共通する問題点も多く、弁護士さんたちの全国連絡会は、各地の裁判に大きな力になっていると思います。

共通する問題点や悩みをかかえている私たち原告団も、孤立して戦うのではなく、同じように連絡会をつくり、手をつないで、全国的な反原発のうねりをつくっていくべきではないでしょうか。これまでも、**1000**万人署名の呼びかけなど、全国的な運動は大きな力になってきましたが、原発訴訟団そのものが手を結んだ全国的な運動はまだありません。

2014年4月5-6日、福島で「原発と人権」の全国集会で顔をあわせた私たちは、期せずして、原告団の全国連絡会の必要性を訴えました。そのような事情から、私たちがまず呼びかけ人になって、連絡会の結成に向けて、動き出そうということになりました。

安部政権が、**3.11**などなかったかのように、原子力発電を再び日本のベース電源と位置づけ、電力会社や経産省とともに、むりやり原発を再稼働させようとしている現在、私たち、原発訴訟に関わってきた者たちは、裁判はもちろんのこと、法廷外においても、原発をやめたいという世論をもっと強め、政府・官僚・電力会社の圧力をはねのけていくべきではないでしょうか。そのために、連絡会をつくり、それぞれの地域での活動を、みんなで支援しあうとともに、東京でも全国の訴訟団が一同に会した大集会などを開き、原発訴訟の意義を、多くの人々に、メディアに訴えていきたいと思います。

さしあたり、各地の脱原発訴訟原告団から**1-2**名の代表に出ただいて準備会をつくり、**10**月に東京で、各地の脱原発訴訟原告団の全国大会を開催、全国的なアピールをすることを当面の目標に、準備をすすめることをよびかけたいと思います。もちろん、東京での全国大会より前にも、各地での集会などを、全国の訴訟団が支援できる態勢もつくっていきたく考えます。

どうか、みなさまのご賛同、ご協力をお願いいたします。

2014年4月18日

小野有五（泊原発の廃炉をめざす会）、大石光伸（東海第二原発訴訟原告団）、蔦川正義（原発なくそう！九州玄海訴訟原告団）、河合弘之（脱原発弁護団全国連絡会代表）